

②重点目標	1 儀式・行事を含めて通常業務を着実に遂行する。 2 PTA活動を通して保護者に学校のことをよく理解してもらおう。	前年度3月作成	
③現 状	1 分掌の枠を越えて協力してもらい、各儀式や行事の運営は円滑に行われている。 2 学校規模に合わせて、PTAの規模や活動の見直しを行っている。 3 保護者への連絡で使う手段を紙媒体から電子媒体へと移行させつつある。		
④具体的な目標	1 各儀式や行事を、それぞれの趣旨に沿った意義深いものにする。 2 PTAに関連した会議や活動のあり方を見直し、保護者が参加しやすいものとする。 3 保護者連絡システム「すぐーる」を活用して、保護者への連絡が行き届くようにする。		
⑤目標達成のための方策	1 学校規模に合わせて、準備等を含めた入学式・卒業式の簡素化を図る。 2 PTA会則の一部改正、PTA進路講話の導入、PTA総会の日曜開催などに取り組む。 3 「すぐーる」による保護者へのこまめな連絡や行事への出欠確認などを行う。		
⑥具体的な取り組み状況	次のような取り組みを行った。 ・入学式、始業式、終業式等の運営 ・PTA・部活動後援会理事会および同総会の開催 ・同窓会三役会および同総会の開催 ・学校要覧、生徒名簿作成 ・奨学金関係業務の遂行 ・避難訓練の実施 ・PTA会報の発行 ・スクールバス関係の連絡調整 ・「校務規程」の改正・印刷		8月までの達成状況や評価
⑦達成状況	各儀式・行事はほぼ予定どおり実施された。各種の通常業務も滞りなく遂行された。森山登山PTA補助活動として保護者にも登山を呼びかけ、1名(PTA会長)が参加した。また、地域の方2名も参加した。PTA役員会では、来年度のPTA総会と学年PTAの同日開催について話し合い、平日に実施する方向で話がまとまった。		
⑧自己評価	(評価) B	(根拠) 入学式・卒業式の簡素化については、まだ検討段階である。PTA総会にあわせてPTA進路講話を開催したためか、PTA総会への参加者は昨年度より数名増加した。また、「すぐーる」は保護者への連絡や出欠確認のために十分活用できている。	
自己評価に基づいた改善策	準備等を含めた入学式・卒業式の簡素化の案については、他の分掌や管理職と事前に話し合ったうえで年内に職員会議にはかりたい。		年度末までの達成状況や評価
⑨具体的な取り組み状況	次のような取り組みを行った。 ・卒業式の運営および簡素化の実施 ・防災講話(クマ対策)の実施 ・フォトニュース、PTA会報、同窓会報の発行 ・同窓会との連携 ・奨学金等の事務運営 ・スクールバス関係の連絡調整 ・生徒手帳の改訂 ・五城目町広報への寄稿 ・保護者連絡システム「すぐーる」によるPTA関係の連絡		
⑩達成状況	入学式・卒業式の準備等における簡素化に取り組み、職員の合意を得て実施する予定である。また、フォトニュースの町内全世帯への配布や町広報への寄稿を通して、地域連携を形にすることができている。「すぐーる」に関しては、保護者への確実な情報伝達のために活用できている。		
⑪自己評価	(評価) B	(根拠) 来年度はPTA総会と学年PTAを平日において同日開催することになったため、4月はその準備などで多忙化が予想される。こうしたPTA行事の集中開催の是非について引き続き検証していく必要がある。	
⑫学校関係者評価と意見	(評価) A	(意見) 保護者と学校とをつなぐ取り組みを重要なので、今後も出席者が増えるよう一層の工夫を期待する。フォトニュースの町内全世帯配付、町広報への寄稿など、地域連携の取り組みは素晴らしく、町内で五高の話題が出る機会が増えている。エリア唯一の高校を存続させ機運につなげたい。生徒数減少にも関わらず、諸行事がスムーズに運営され、むしろ充実化されている。	教頭記入
⑬自己評価および学校関係者評価に基づいた改善策	コロナ禍を経て、そして生徒数の減少という現実を踏まえて、ここ数年でPTA行事についてはかなりの程度の整理・統合を試みてきた。また、卒業式などの儀式についても準備等の簡素化が求められたため、可能な限りそうした取り組みを行ってきた。学校存続のためにも、今後も地域や家庭との連携を深めるよう努力していきたい。		主任記入

評価基準 A: 具体的な活動がなされ、目標が達成できた。
 B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。
 C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

②重点目標	基礎学力の定着と向上を図る。 思考力を育む授業改善を図る。	前年度3月作成				
③現状	入学者の多くは学習に対する強い苦手意識を持っており、中学校段階の基礎・基本の学習内容が定着しておらず、高校での学習へとスムーズに移行できていない。五高ベーシック、コース制、朝学習、協働的な学習等の取り組みを通じて、引き続き一人一人の学習意欲向上を図りながら、主体的な学習姿勢を育む必要がある。また、基礎学力定着だけでなく学力伸長のためには思考力も育む必要がある。					
④具体的な目標	1 自立に向かうための基礎・基本の指導を徹底し、分かる喜びや楽しさを体験させながら、自発的な学習態度を育成する。 2 問いや課題に根気強く立ち向かい、他者と協力しながらよりよく解決しようとする姿勢を育む。 3 学習習慣を身に付けさせ、自ら学び続ける生徒を育てる。					
⑤目標達成のための方策	1 五高ベーシックや習熟度少人数学習、コース制の効率的な在り方を検討し、学力各層に配慮した分かる授業を実践し、生徒の自己肯定感を高める。 2 協働的な学習を積極的に取り入れ、思考の過程を自らの言葉で説明させ、その見方や考え方を共有しながら、それぞれの考えを広げ深められるように工夫する。 3 地域の教育力を積極的に活用できる方法を模索、実践し、生徒の学びの幅を広げる。 4 授業に向かう姿勢・環境づくり(授業内での生徒指導充実)を図る。					
⑥具体的な取り組み状況	1 シラバス・年間指導計画及び評価計画表を元に各教科担当が授業を進める他、振り返り(リフレクションシート)を活用させ、授業の進め方や内容の見直しを行いながら学力定着を進めている。 2 今年度の授業研修テーマ「生徒の思考を深める授業づくり」を踏まえた第1回オープン授業デーを実施し、実施後の意見・感想を整理するなど授業改善への取り組みを進めている。 3 ICTを活用して生徒間でのデータ共有・まとめ・発表をするようなコミュニケーションツール活用を行い授業改善を進めている。 4 各学年で朝学習・読書を実施している他、長期休業課題や補習を進めており学力向上や学習習慣の確立に取り組んでいる。		8月までの達成状況や評価			
⑦達成状況	1 第1回授業アンケートの結果からは生徒の自己評価の平均値が4.6/5.0、授業評価の平均値も4.3/5.0であった。昨年度と比べると自己評価が0.1ポイント上昇、授業評価は0.1ポイント低下したことを改善につなげたい。 2 朝学習・読書・長期休業課題・補習は各学年で計画的に実施され、学習習慣の定着取組はできている。					
⑧自己評価	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 20%;">(評価)</td> <td>(根拠)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">B</td> <td>1 授業アンケート結果で生徒の自己評価は上昇したが、授業評価が低下したこと。 2 学習習慣の定着はできたが、生徒一人一人の思考力向上に課題があるため。</td> </tr> </table>	(評価)		(根拠)	B	1 授業アンケート結果で生徒の自己評価は上昇したが、授業評価が低下したこと。 2 学習習慣の定着はできたが、生徒一人一人の思考力向上に課題があるため。
(評価)	(根拠)					
B	1 授業アンケート結果で生徒の自己評価は上昇したが、授業評価が低下したこと。 2 学習習慣の定着はできたが、生徒一人一人の思考力向上に課題があるため。					
自己評価に基づいた改善策	1 今後も振り返りや授業内評価について考察・工夫を重ね、授業改善を特に進めていく。 2 授業アンケート結果やオープン授業デーの課題から、その都度教科内で話し合い、改善を進めていく。 3 第2回オープン授業デーでは、「思考力を深める授業」を考慮して取り組む。					
⑨具体的な取り組み状況	1 シラバス・年間指導計画及び観点別評価表や振り返り(リフレクションシート)を活用させ、授業の進め方や内容の見直しを行いながら授業改善を進めている。 2 2回目のオープン授業デーと授業アンケート結果を元に、全職員での共有と各教科内の話し合いを進めている。 3 冬季休業中に、自動採点システム実習とFigJam活用の研修を行い、ICT機器活用力向上に努めている。 4 各学年で朝学習や長期休業課題・補習を進めており、学力向上と学習習慣の確立に取り組んでいる。	年度末までの達成状況や評価				
⑩達成状況	1 第2回授業アンケートの結果は、第1回目とほぼ変わらずの平均値であったが、その中で教師側の授業評価の平均値が0.01ポイントの上昇があり、授業改善の成果が少しではあるが出てきている。その反面、生徒側の自己評価の平均値が0.03ポイントの低下が見られ、意欲向上や継続に課題が残る。 2 朝学習・長期休業課題・補習は各学年で計画的に実施され、学習習慣の定着はできている。					
⑪自己評価	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 20%;">(評価)</td> <td>(根拠)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">B</td> <td>1 授業アンケートで教師側の授業評価は上昇したが、生徒側の自己評価の平均値が0.03ポイントの低下が見られたため。 2 学習習慣の定着はできたが、生徒一人一人の思考力向上に課題があるため。</td> </tr> </table>		(評価)	(根拠)	B	1 授業アンケートで教師側の授業評価は上昇したが、生徒側の自己評価の平均値が0.03ポイントの低下が見られたため。 2 学習習慣の定着はできたが、生徒一人一人の思考力向上に課題があるため。
(評価)	(根拠)					
B	1 授業アンケートで教師側の授業評価は上昇したが、生徒側の自己評価の平均値が0.03ポイントの低下が見られたため。 2 学習習慣の定着はできたが、生徒一人一人の思考力向上に課題があるため。					
⑫学校関係者評価と意見	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 20%;">(評価)</td> <td>(意見)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">A</td> <td>オープン授業デーを拝見し、先生方が生徒一人一人を大切に支援している。どの教室も温かい雰囲気、生徒は安心して学習ができています。 授業アンケートでは「考えさせる工夫」で評価が高く、先生方の努力が感じられた。今後も「自ら考え、判断し、表現する」を日々の授業で展開し、関係書籍を活用するなどして将来の展望に繋いでほしい。</td> </tr> </table>	(評価)	(意見)	A	オープン授業デーを拝見し、先生方が生徒一人一人を大切に支援している。どの教室も温かい雰囲気、生徒は安心して学習ができています。 授業アンケートでは「考えさせる工夫」で評価が高く、先生方の努力が感じられた。今後も「自ら考え、判断し、表現する」を日々の授業で展開し、関係書籍を活用するなどして将来の展望に繋いでほしい。	教頭記入
(評価)	(意見)					
A	オープン授業デーを拝見し、先生方が生徒一人一人を大切に支援している。どの教室も温かい雰囲気、生徒は安心して学習ができています。 授業アンケートでは「考えさせる工夫」で評価が高く、先生方の努力が感じられた。今後も「自ら考え、判断し、表現する」を日々の授業で展開し、関係書籍を活用するなどして将来の展望に繋いでほしい。					
⑬自己評価および学校関係者評価に基づいた改善策	1 各教科ごとに「身につけさせたい学力」の確認と具体的な取組についての再検討を促したい。 2 地域学習や交流・連携を深めた教育課程の検討を進めていきたい。 3 今後も校内研修、校外研修の積極的な企画、参加を促し、授業改善を進めていきたい。	主任記入				

評価基準 A: 具体的な活動がなされ、目標が達成できた。
 B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。
 C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

②重点目標	生徒の健全な成長を喚起する。		前年度3月作成
③現 状	1 問題行動の件数は落ち着いた状態で推移しており、指導件数は前年と同数であった。しかし、指導された人数は前年より増加した。 2 SNSが関係する問題やSNSで問題が発覚するものが多い。 3 クラスや部活動内での人間関係に関係するトラブルが多い。		
④具体的な目標	1 自己有用感や達成感、道徳心を涵養するための積極的な働きかけを行う。 2 生徒の言動等の情報把握に努め、問題行動の未然防止につなげる。 3 問題行動やいじめに対しては、迅速に組織的な対応を図る。 4 立ち止まっの挨拶を励行するなど、基本的なマナーと正しい整容を身に付けさせる。		
⑤目標達成のための方策	1 クラス担任や副担任、学年主任や生徒指導部はもちろん、全職員で適宜生徒指導につながるような働きかけを行う（授業、HR、集会、学校行事、儀式、部活動など）。また、外部団体（警察など）の力を積極的に活用していく。 2 普段の生活における言動、担任による面談、学校生活アンケートの複数回実施などで情報把握に努め、必要な情報を共有する。特に、大型連休や長期休業明けの様子や変化を注意深く見ていく。また、全職員で適宜必要な声かけを行う。 3 報告・連絡・相談を密に行う。初期対応を特に大切にする。また、相談しやすい雰囲気づくりに努め、教員同士のコミュニケーションを円滑に行う。 4 「こころ 姿 振る舞い さわやか高校生運動」や「立ち止まっの挨拶」の重要性や必要性を理解させ、指導する。		
⑥具体的な取り組み状況	1 各教育活動の各種場面を活用し、生徒指導に関わる働きかけを行っている。また、五城目警察署のご協力により、交通安全、薬物乱用防止について考える機会を得ることができた。 2 担任は生徒をよく観察することの他、4月、夏季休業明けに面談を行った。また、7月に第1回の学校生活アンケートを実施し、情報把握と情報の共有を行った。 3 各学年、朝の打ち合わせ必ず行い連絡を密にしている。 4 挨拶についての指導やマナー指導を場面を捉え行っている。		8月までの達成状況や評価
⑦達成状況	1 行事や集会、HR活動などで自己有用感や達成感、道徳心を涵養するための働きかけを適宜行うことはできている。 2 生徒の言動等の変化や情報把握に努め、問題行動の未然防止や早期発見、早期解決に努めている。 3 いじめ事案に対して、迅速に組織的な対応を図ることができている。（いじめ事案、問題行動が数件発生している。） 4 立ち止まっの挨拶については、概ね実践できている。基本的なマナーと正しい整容を身に付けさせ指導をしているが、注意や指導を加えないと整容面を正ることができない生徒も見受けられる。		
⑧自己評価	(評価) B	(根拠) 1 特に、学校行事を通して、多くの生徒が自己有用感や達成感を得ている姿が見えた。 2 必要な情報共有、報告や相談は概ねできている。問題の未然防止に努めているが、いくつか問題が起きている。 3 各事案（いじめ関係）に対して組織的に対応できており、早期の解決に繋がっていると思われる。 4 整容や挨拶、立ち振る舞いなどの意識向上につながる指導を、場面を捉え適宜行っている。	
自己評価に基づいた改善策	・学校生活アンケート（9月、2月）の実施、気になる生徒への声かけなどで状況把握に努め、必要な情報を全職員で共有する。 ・引き続き、いじめや問題行動の未然防止に努める。 ・問題に対しては、適切な初期対応、組織的な対応を行い、早期発見、早期解決に取り組む。		
⑨具体的な取り組み状況	1 朝の打ち合わせも活用し、情報共有を継続的にしている。また、定例で学年部会を開催し、情報共有をより密に行っている。 2 全職員で情報共有し、集計結果や気になる記載についてすぐに対応した。 3 9月初旬に、担任や副担任、学年主任による面談を実施し、長期休業（夏季休業）明けの生徒の状況把握（変化など）に努めた。有意義な期間だと思われる。 4 ホームルーム活動、登校時指導、各集会時などで挨拶を含む基本的な生活習慣の確立につながる指導を心がけて指導した。		年度末までの達成状況や評価
⑩達成状況	1 全職員が適宜、生徒の良い所や頑張りを認めるなど自己有用感の醸成につながる指導を心がけた。また、全職員が適宜ルールやマナーを守ることの大切さを指導し、また、交通安全講習会や薬物乱用防止講習会では関係機関の協力頂き、道徳心の涵養につながる指導することができた。 2 各学年、主任を中心に情報共有、必要な報告や相談することができた。また、管理職への報告や相談もできている。 3 問題行動、いじめやいじめに繋がる可能性のある事柄について、組織的に素早い対応ができた。 4 整容面の指導に関しては、指導に苦慮する生徒も数名見られるが、粘り強く対応、指導できている。		
⑪自己評価	(評価) B	(根拠) 様々な生徒の個性や状況に対応しながら、教職員は真摯に生徒と向き合いながら、丁寧に指導にあたっている。それでも、問題行動に繋がりがかねないトラブルなどが数件あった。対応については組織的にできたが、未然防止については検証する必要性を感じている。	
⑫学校関係者評価と意見	(評価) A	(意見) ・全職員が共通理解のもと、個性豊かな生徒たちひとりひとりに丁寧に対応している。 ・今後、丁寧な指導に加え、生徒自らが思考・対話し、学生生活を自治していく力を育ててほしい。 ・予防的な生徒指導は大切だが、起きたことに対応できる実践力を身に付けることも重要。何も起きないことだけがよいのではなく、起きた事実を大切に、次につながる力を身に付けさせたい。	
⑬自己評価および学校関係者評価に基づいた改善策	1 引き続き、教職員で生徒の状況把握に努め、必要な情報を共有し、問題行動の未然防止に取り組んでいきたい。 2 トラブルや事故が起きてしまった場合は、初期対応、チームでの対応、報告、相談、連絡など必要なことを積み重ねて、「大事」にならないようにしていく。 3 起きた事を検証するなどし、未然防止や各対応など「次」に生かす。 4 教育活動全体を通して、生徒の規範意識を高めるために必要と思われる「自己有用感」「道徳心の涵養」など目に見えないが大切なものを育てる働きかけを考え、実践していく。		

評価基準 A: 具体的な活動がなされ、目標が達成できた。

B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

②重点目標	1 3年間の系統的な進路指導を推進し、早い段階からの進路意識の高揚を図る。 2 きめ細やかな進路指導を行うことにより、3年生全員の進路達成を目指す。 3 国立大学や看護系への進学希望者の進路実現のために学力を保障し、夢を諦めさせない。	前年度3月作成				
③現 状	就職に関しては少子化・コロナ明けの人手不足により、ほぼ生徒の希望通りとなった。進学は推薦制度を利用し、生徒の希望する大学・短大に進路が決定した。学力的に一般受験では他校と太刀打ちできないため、推薦制度をうまく活用するのが目標達成につながっている。進学希望者、公務員に関しては、1、2年次の早い段階から個別で指導していく必要がある。また、3年間を見通した進路指導に関しては、学年だけでなく職員全体で協力し合うことも重要だ。					
④具体的な目標	1 学年部との連携を密にし、3年間を見通した進路指導計画を実施する。 2 進路検討会や指導担当者の割り当てなどを円滑に運営する。 3 国立大学や看護系の志望者への指導を強化する。					
⑤目標達成のための方策	1 3年間を見通した進路指導計画の立案、運営を実施する。 2 職場定着就職支援員や進路担当との面談を通して生徒の進路希望の把握に努め指導に生かす。 3 国立大学や看護系の志望者において、学年部と連携して指導計画を立てる。					
⑥具体的な取り組み状況	進路指導部が中心となりキャリアアップ集会(5月)やキャリアガイダンス(8月)を実施した。またハローワークと協力して3年生全員を対象に模擬面接を実施した。今後も進路指導部や学年が主体となり、企業訪問(1年対象)や講演(1・2年対象)、進路ガイダンスを計画している。今年も全職員に面接・論文指導を振り分け、協力をお願いしている。	8月までの達成状況や評価				
⑦達成状況	進路指導部が中心となって計画した進路行事により、生徒の進路意識や働く意義について深く考えさせることができた。また各学年でも進路ガイダンスを計画・実施しており、重点目標である進路意識の高揚は概ね達成できたと思う。 国語科に論文指導を急遽お願いすることがあったので、志望先は早めに決めさせるのがいい。					
⑧自己評価	<table border="1"> <tr> <td>(評価)</td> <td>(根拠)</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>進路意識を高めるよう努力したが、人手不足という社会情勢により生徒の危機感が薄く、進路活動の動きが鈍かった。早めに生徒の意識を進路に向かわせること、また学校生活を通じて生活習慣を身につけさせることや、生徒の特徴を知り臨機応変に対応する必要があると感じた。</td> </tr> </table>		(評価)	(根拠)	B	進路意識を高めるよう努力したが、人手不足という社会情勢により生徒の危機感が薄く、進路活動の動きが鈍かった。早めに生徒の意識を進路に向かわせること、また学校生活を通じて生活習慣を身につけさせることや、生徒の特徴を知り臨機応変に対応する必要があると感じた。
(評価)	(根拠)					
B	進路意識を高めるよう努力したが、人手不足という社会情勢により生徒の危機感が薄く、進路活動の動きが鈍かった。早めに生徒の意識を進路に向かわせること、また学校生活を通じて生活習慣を身につけさせることや、生徒の特徴を知り臨機応変に対応する必要があると感じた。					
自己評価に基づいた改善策	1 生徒・学校・保護者との情報共有を強化する。 2 特定の先生だけ進路指導に当たらないよう連携をとり、全職員で生徒の進路実現をめざす。					
⑨具体的な取り組み状況	1 学年の枠を越え、昼休みや放課後に生徒の面接・小論文指導に当たった。 2 進路指導部・学年で協力して進路意識を高めるために進路ガイダンス等を主催した。また、昨年度12月に行っていたキャリアガイダンスを、次年度のコース選択の参考にもなるよう、7月に行った。 3 本校勤務の職場定着支援員の協力のもと、地元企業を深く知るための講演や企業見学等を行った。	年度末までの達成状況や評価				
⑩達成状況	1 最初の試験で不合格となった生徒もいたが、次の試験に向けて気持ちを切り替えさせ、概ね生徒が希望する職業や学校に進路が決定した。 2 県や業者と共催したキャリアガイダンスや進路ガイダンスを通して生徒の進路意識を高めることができた。また夏季休業中にガイダンスを行うことで3年生も参加し、受験希望の会社の理解を深めることができた。					
⑪自己評価	<table border="1"> <tr> <td>(評価)</td> <td>(根拠)</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>様々な進路行事を契機に、生徒の進路意識を高めることができ、全職員の協力のおかげで3年生の進路についてほぼ全員の就職・進学先が決定することができた。今年度は、長期にわたり生徒を指導しなければならぬことが多く、担当教諭の負担も続いたため、昨年同様、担当教諭の負担軽減が課題である。</td> </tr> </table>	(評価)	(根拠)	B	様々な進路行事を契機に、生徒の進路意識を高めることができ、全職員の協力のおかげで3年生の進路についてほぼ全員の就職・進学先が決定することができた。今年度は、長期にわたり生徒を指導しなければならぬことが多く、担当教諭の負担も続いたため、昨年同様、担当教諭の負担軽減が課題である。	教頭記入
(評価)	(根拠)					
B	様々な進路行事を契機に、生徒の進路意識を高めることができ、全職員の協力のおかげで3年生の進路についてほぼ全員の就職・進学先が決定することができた。今年度は、長期にわたり生徒を指導しなければならぬことが多く、担当教諭の負担も続いたため、昨年同様、担当教諭の負担軽減が課題である。					
⑫学校関係者評価と意見	<table border="1"> <tr> <td>(評価)</td> <td>(意見)</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>寄り添い支えた教師の励ましはその生徒の一生を支える。生徒の進路意識を高め、3年生全員の就職、進学先が決定したことは先生方の取組の成果である。今後も、地域連携など、在学中から地域企業との関係性を育みつつ、生徒、家庭の多様なニーズへの対応や将来の社会展望など、広い視野を持って指導して欲しい。また、特定の教師に負担が大きく偏らないよう教師間で支え合う工夫をして欲しい。</td> </tr> </table>	(評価)	(意見)	A	寄り添い支えた教師の励ましはその生徒の一生を支える。生徒の進路意識を高め、3年生全員の就職、進学先が決定したことは先生方の取組の成果である。今後も、地域連携など、在学中から地域企業との関係性を育みつつ、生徒、家庭の多様なニーズへの対応や将来の社会展望など、広い視野を持って指導して欲しい。また、特定の教師に負担が大きく偏らないよう教師間で支え合う工夫をして欲しい。	
(評価)	(意見)					
A	寄り添い支えた教師の励ましはその生徒の一生を支える。生徒の進路意識を高め、3年生全員の就職、進学先が決定したことは先生方の取組の成果である。今後も、地域連携など、在学中から地域企業との関係性を育みつつ、生徒、家庭の多様なニーズへの対応や将来の社会展望など、広い視野を持って指導して欲しい。また、特定の教師に負担が大きく偏らないよう教師間で支え合う工夫をして欲しい。					
⑬自己評価および学校関係者評価に基づいた改善策	進路活動については十分に評価してもらったので、来年度も進路活動を充実させていきたい。特に1年生の企業見学や2年生のインターンシップなどを通して、地域企業の魅力をより伝える事ができるよう、生徒への情報伝達を充実させる。また特定の教員だけに負担がかからないよう、職員全員で生徒の指導にあたるという共通認識を高めたいと思う。	主任記入				

評価基準 A: 具体的な活動がなされ、目標が達成できた。
 B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。
 C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

②重点目標	特別活動行事への参加を通して、個性の伸長を図り、本校および地域社会の一員としてよりよい在り方生き方を求めて活動する実践的な態度を養う。		前年度3月作成
③現 状	生徒数減少により、生徒会役員数の改正や生徒会常任委員会の再編を行った。また、ソフトテニス部と陸上競技部が廃部となった。学校行事等はこれまでと同規模での実施は負担が大きくなってきているため、職員・生徒・保護者に対して理解を求めながら対応する必要がある。		
④具体的な目標	1 生徒会については、各委員会が協力し、全校生徒による自治的、組織的な活動を行う。 2 部活動加入については、新入生は100%を目指して加入を勧める。 3 学校行事については、誰もが楽しめる盛り上がりのあるものにし、生徒の連帯感や愛校心を高める。		
⑤目標達成のための方策	1 委員会の業務内容を見直し計画立案する。 2 部活動への加入勧誘は年間を通じて全職員ですすめていく。 3 生徒に諸活動の意義と必要性を理解させ、学校行事の縮小や変更を計画する。		
⑥具体的な取り組み状況	1 常任委員会や生徒総会で活動目標や計画を立てた。 2 部活動紹介や各大会の壮行会、報告会で活動を知ってもらった。 3 馬場目川クリーンアップ、全校登山、学校祭などを実施した。		
⑦達成状況	1 新入生の部活動加入率は56.5%(4月当初)と昨年度を下回った。その後の退部者が多い。 2 全校登山はPTA、地域の協力を得て実施した。 3 学校祭は内容や一般公開の時間などを工夫して生徒の活躍を見ていただいた。		8月までの達成状況や評価
⑧自己評価	(評価) B	(根拠) 学校行事への協力やボランティア活動などを通して、集団や社会の一員としてよりよい学校生活づくりに参画しようとする態度が見られるようになった。	
自己評価に基づいた改善策	好ましい人間関係を深めるための活動や異年齢集団による交流を図りたい。(クラス対抗)		
⑨具体的な取り組み状況	1 クラス対抗を実施した。 2 生徒会役員改選を行った。 3 来年度特活行事について検討した。		年度末までの達成状況や評価
⑩達成状況	1 合同チームを編成してリーグ戦を実施するなど、熱戦が繰り広げられた。 2 生徒会会則改正後大きな問題がなく業務を行うことができた。 3 生徒の安心安全を考えた場合、同じ内容での実施が難しくなっている。生徒の意見も取り入れながら検討が必要である。部活動については特に新チーム以降部員不足に苦しんでいる。		
⑪自己評価	(評価) B	(根拠) 今年度も地域、PTA、職員の協力と生徒の頑張りで無事に学校行事を実施できたが、全校登山については内容の検討が必要になっている。充実した高校生活のために、部活動は大事にしたので他校との合同チーム結成等は積極的に進めていく必要がある。	教頭記入
⑫学校関係者評価と意見	(評価) A	(意見) 地域貢献としてのボランティア活動など、地域とのつながりを大切に活動を行っているのがよい。学校行事を通して生徒は地域とともにある学校だと強く自覚させられた。フォトニュースや新聞記事で、特別活動の様子がよくわかる。影で尽力されている先生方に感謝。生徒減で、運営が難しい中でも、生徒たちの活動を支えてあげてほしい。	
⑬自己評価および学校関係者評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・地域にある中学校と高校が連携して地域貢献としてのボランティア活動など、地域とのつながりを大切に活動を行う。 ・生徒数減少に伴い行事も部活動も運営が難しくなるが、学校規模に見合った活動に見直す。 ・全戸配布のフォトニュースや新聞記事で、特別活動の様子を伝える。 		主任記入

評価基準 A: 具体的な活動がなされ、目標が達成できた。
 B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。
 C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

②重点目標	1 主体的に心身の保持増進に努めようとする生徒を育成する。 2 生徒に寄り添い、心の成長を支える教育相談支援の整備・充実を図る。 3 特別支援教育体制の整備・充実を図る。	前年度3月作成		
③現状	1 検診の結果を生かした生活や怪我の予防等、健康管理ができていない生徒がいる。 2 学校生活上の困難をかかえ、問題の解決や適応がうまくできない生徒の割合が増加し、家庭の状況が多様化している。 3 特別な支援を要する生徒やその境界にある生徒に対する合理的配慮や卒業後を見据えた指導が必要である。			
④具体的な目標	1 生徒の健康状態や生活を把握し、必要な情報を提供して健康管理の意識を高める。 2 生徒の抱える諸問題の把握と傾聴に努め、職員が連携・協力して組織的な指導を行う。 3 様々な配慮や支援を要する生徒に対して、外部機関との連携・協力を図りながら、実態に合った配慮や支援を行う。			
⑤目標達成のための方策	1 検診や健康観察によって生徒の心身の状態を把握し、職員間で情報共有を図る。ほけんだよりや担任・顧問等の支援によって、健康管理に対する意識を高める。 2 年間複数回の個人面談週間を設定する等教育相談を充実するほか、多様化している生徒の自己理解を深める面談ができるように職員の研修機会を設定する。 3 中高連絡会議を始め、中学校との連携を一層充実させるとともに、特別支援教育に関する専門的知見を備えた外部機関とも連携し、将来を見据えた支援を行う。			
⑥具体的な取り組み状況	1 各検診や健康観察による情報共有と、ほけんだよりを通じて生徒の意識の啓発に取り組んだ。 2 8月23日に全職員を対象に面談及びその情報共有のあり方を研修することができた。 3 1年生のクラス編成に中高連絡会の情報を生かした。高等学校特別支援チームによって、4月30日に授業参観とケース会議を実施した。		8月までの達成状況や評価	
⑦達成状況	1 近年と比較して、保健室来室状況は落ち着いたが、3年生の利用率は高止まりである。 2 面談に関する職員研修会を実施し、個人面談や保護者面談等への活用を図った。 3 中学時に不登校傾向だった1年生が粘り強く登校している。各学年とも一部心配な生徒がいるものの、全体的に生徒個々に応じた支援が行われている。			
⑧自己評価	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="391 1019 494 1153">B</td> <td data-bbox="494 1019 1356 1153">(根拠) 健康診断や検診、健康観察、ほけんだより等を通じて、生徒の健康保持増進についての生徒の意識を高めた。面談による支援と情報共有について、研修の活用を期待している。引き続き、心配な生徒への対応を組織的に取り組む必要がある。</td> </tr> </table>	B		(根拠) 健康診断や検診、健康観察、ほけんだより等を通じて、生徒の健康保持増進についての生徒の意識を高めた。面談による支援と情報共有について、研修の活用を期待している。引き続き、心配な生徒への対応を組織的に取り組む必要がある。
B	(根拠) 健康診断や検診、健康観察、ほけんだより等を通じて、生徒の健康保持増進についての生徒の意識を高めた。面談による支援と情報共有について、研修の活用を期待している。引き続き、心配な生徒への対応を組織的に取り組む必要がある。			
自己評価に基づいた改善策	配慮が必要な生徒について、外部機関や出身校との連携を組織的に図り、本人・保護者に対して、授業や学校生活等、丁寧な意思確認をするとともに、適切な配慮の共通理解を得る。			
⑨具体的な取り組み状況	1 健康診断や健康観察、ほけんだより等を通じて生徒の自己管理意識を高めることができ、行事において重大な怪我などがなく終えることができた。 2 年2回の定期的な面談週間や必要に応じて個別面談を各担任が実施した。教職員間の連携・協力が概ね機能しており、悩みのある生徒に対応した。スクールカウンセラーや高等学校特別支援チームと連携して、生徒の状況把握と個別対応を行った。 3 高等学校特別支援チームに依頼して特別支援教育的な支援に対する職員研修を8月23日に実施した。ロールプレイングで生徒や保護者との情報共有や支援のあり方を学んだ。配慮の必要な生徒への授業参観及びケース会議を実施した。	年度末までの達成状況や評価		
⑩達成状況	1 保健室利用状況からは、健康管理に対する生徒の意識は高まってきたようだ。また、清掃活動において、生徒・教員減が影響して課題となっている。 2 スクールカウンセラーと養護教諭の連携が円滑で、生徒に寄り添い、よく機能している。教員以外との相談は、本人を落ち着かせているようだ。 3 配慮を要する生徒とその保護者への対応をきめ細かく行っている。生徒の将来に向け、専門機関と連携してケース会議を実施した。			
⑪自己評価	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="391 1624 494 1736">B</td> <td data-bbox="494 1624 1356 1736">(根拠) 健康診断や健康観察、ほけんだより等を通じた健康管理意識の向上や、校内及び外部連携による配慮を要する生徒への支援のあり方について共通理解を図った。一方、清掃活動においては、担当区域の広さに生徒・教員が不足していることが課題である。</td> </tr> </table>		B	(根拠) 健康診断や健康観察、ほけんだより等を通じた健康管理意識の向上や、校内及び外部連携による配慮を要する生徒への支援のあり方について共通理解を図った。一方、清掃活動においては、担当区域の広さに生徒・教員が不足していることが課題である。
B	(根拠) 健康診断や健康観察、ほけんだより等を通じた健康管理意識の向上や、校内及び外部連携による配慮を要する生徒への支援のあり方について共通理解を図った。一方、清掃活動においては、担当区域の広さに生徒・教員が不足していることが課題である。			
⑫学校関係者評価と意見	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="391 1736 494 1870">A</td> <td data-bbox="494 1736 1356 1870">(意見) 専門機関との連携等、生徒や保護者への対応を、職員が連携して組織的にきめ細かく行っている。家庭環境も含めた視点でのケアを進められているようで、非常に多面的な取組で素晴らしい。自助、協助、公助、を基本理念に今後も取り組んでほしい。</td> </tr> </table>	A	(意見) 専門機関との連携等、生徒や保護者への対応を、職員が連携して組織的にきめ細かく行っている。家庭環境も含めた視点でのケアを進められているようで、非常に多面的な取組で素晴らしい。自助、協助、公助、を基本理念に今後も取り組んでほしい。	教頭記入
A	(意見) 専門機関との連携等、生徒や保護者への対応を、職員が連携して組織的にきめ細かく行っている。家庭環境も含めた視点でのケアを進められているようで、非常に多面的な取組で素晴らしい。自助、協助、公助、を基本理念に今後も取り組んでほしい。			
⑬自己評価および学校関係者評価に基づいた改善策	1 清掃活動に取り組む生徒数の減少に対して、清掃区域のローテーションの工夫を図りながら、日常から環境美化を意識する支援のあり方を模索していく。 2 教育相談における職員の課題・悩みを共有して、研修などを通じて改善に取り組む。 3 配慮を要する生徒の早期把握に努め、その対応を組織的に継続するため、具体的な配慮の事例を職員全体で共有していく。	主任記入		

評価基準 A: 具体的な活動がなされ、目標が達成できた。
 B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。
 C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

②重点目標	1 図書室の利用促進と読書活動の推進 2 ICT活用授業の推進と教員研修の実施		前年度3月作成
③現 状	1 図書室の蔵書数は増加しているが、図書の貸出数や読書をする生徒数は減少している。 2 ICT機器を利用した授業が増加しており、さらに学習に効果的な活用が求められている。		
④具体的な目標	1 読解力の育成を目的として図書室の図書の紹介に努め、貸出数や読書数の増加を図る。 2 ICT機器活用状況を把握し、必要な教員研修を実施する。		
⑤目標達成のための方策	1 生徒への読書アンケートを実施するとともに、教科と連携して図書紹介の機会を増やす。 2 校内でICT機器活用と必要な研修内容のアンケートを実施し、教員研修を企画・実施する。		
⑥具体的な取り組み状況	・前期分の図書を購入し、生徒に対する図書紹介の準備を進めている。 ・電子黒板の授業での活用が増加しており、さらなる活用推進のための研修の準備を進めている。		8月までの達成状況や評価
⑦達成状況	・図書室運営と図書購入は進んでいるが、読書アンケートは未実施である。 ・業務情報化のための研修は行われたが、ICT活用研修は未実施である。		
⑧自己評価	(評価) B	(根拠) ・図書室運営と図書購入は進んでいるが、生徒の読書推進のための取組が不足している。 ・ICT活用推進のための研修計画はできているが未実施である。	
自己評価に基づいた改善策	生徒対象の読書アンケートと教員対象のICTアンケートを実施し、読書とICT活用の推進に努める。		年度末までの達成状況や評価
⑨具体的な取り組み状況	・学校予算で図書91冊を購入した。生徒が興味をもつと思われる図書や教員が必要とする書籍、文学賞受賞作品などを揃え、生徒の読書推進に努めた。没後80年の五城目出身作家・矢田津世子の作品普及を目的として全校生徒にアンケートを実施した。 ・授業で意見や情報、感想などをリアルタイムで共有できる「FigJam(フィグジャム)」の教員研修を実施した。研修では実際に情報交換をし、授業での活用方法について考えた。		
⑩達成状況	・各学年で読書を朝学習に取り入れていることや、生徒が興味をもつ図書の購入に努めていることなど読書活動の一層の推進に努めてきた。 ・電子黒板を使用する授業が増加している。授業で活用できるアプリに関する教員研修を実施した。		
⑪自己評価	(評価) B	(根拠) ・授業での図書室利用は多い。読書活動推進に取り組んではいるが生徒の読書量は十分ではない。 ・授業で活用できるアプリの教員研修を実施した。授業実践の収集と提供が課題である。	
⑫学校関係者評価と意見	(評価) B	(意見) AIなど新たな技術を活かし、ICTを効果的に使用した学習環境づくりは、先進校や実践例に学んで進めてほしい。 ICT機器の活用は必須と感じる一方で、生徒の文字離れが気になります。読書習慣をつくるための時間を設けるなど、読書量を増やす方策を。 現況を充実してほしい。同窓会より百科事典の寄贈もあった。是非活用してほしい。	教頭記入
⑬自己評価および学校関係者評価に基づいた改善策	・生徒の文字離れや読書量の減少への対応としての図書館利用促進を目指し、学年部や教科などと連携して取り組む。 ・ICTを活用した学習の推進のために、ICT学習環境の整備や活用事例の収集・共有に取り組むとともに、生徒が社会に出てからも役立つICT教育の充実に取り組む。		主任記入

評価基準 A: 具体的な活動がなされ、目標が達成できた。
 B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。
 C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

②重点目標	1 基本的な生活習慣の確立をする。 2 コミュニケーション能力の育成をする。 3 早期の進路目標が設定できるようにする。		前年度3月作成
③現 状	中学校時に不登校や、学力に不安を抱える生徒が多いため、個々の生徒の状況を把握し、共通理解のもと学年での指導だけでなく、学校全体での支援を考える必要がある		
④具体的な目標	1 年度内皆勤を目指して生活習慣を整えることと、部活動への積極的加入を進める。 2 生徒理解を確かなものにするための指導・援助を行う。 3 早期に進路目標を設定する。		
⑤目標達成のための方策	1 学習習慣の確立のために朝学習を充実させ、遅刻防止にもつなげる。 2 担任・学年主任による年3回の個人面談を実施する。 3 総合的な探究の時間・LHRを活用し、自己実現につなげる。		
⑥具体的な取り組み状況	1 朝自習を実施している。 2 個人面談、保護者面談を実施した。 3 校外学習や進路講話、進路希望調査を実施した。		
⑦達成状況	1 朝自習に遅刻する生徒はいない。新入生の部活動加入率は56.5%(4月当初)と昨年度を下回った。その後の退部者が多い。 2 面談の内容を学年全体で共有し、生徒の声かけなどに役立っている。 3 探究テーマの決定などに向け準備を進めている。		8月までの達成状況や評価
⑧自己評価	(評価) B	(根拠) 生活習慣を整えることが難しく欠席が続いた生徒や自分自身の行動をコントロールができず良好な友人関係を築けなかった生徒に対しての指導や配慮が不十分だった。	
自己評価に基づいた改善策	1 教育活動全般において指導を継続する。 2 進路指導やコース選択などについて個人面談を行う。保護者とも連絡を取り合う。 3 五城目町の特徴と課題について探究活動を進め、職場見学やガイダンスを通して進路意識を高める。		
⑨具体的な取り組み状況	1 学習習慣の確立のために朝自習の継続や定期考査前の学習会を実施した。 2 コース選択やインターンシップ先希望確認など、必要に応じて保護者の意見なども確認した。面談や家庭との連絡も密に行った。 3 郷土学習や「トップが語る秋田の企業」を実施した。		
⑩達成状況	1 遅刻する生徒はいないが年度内皆勤は3名である。 2 生徒との面接は必要に応じて複数回行い、学校生活全般について相談のり指導や助言を行った。 3 郷土の理解を深めることができた。職場見学や経営者講話、職業ガイダンスなどを通して、秋田にも魅力的な企業がたくさんあることを知った。		
⑪自己評価	(評価) B	(根拠) 1 基本的な生活習慣の確立はできているが、部活動加入率が低いのが残念である。 2 学年で情報を共有し生徒の細かい変化を見逃さず、保護者へは問題発生前に連絡をするようにした。 3 学年全体で進路に関する知識や意識が高まった。	年度末までの達成状況や評価
⑫学校関係者評価と意見	(評価) A	(意見) 生徒の実態をしっかり捉えて一人一人の生徒の支援にあたっている。部活動加入数の減少は仕方ない部分もあるが、他校との連携や、部活以外の地域など多様な選択肢が生まれればよい。授業アンケートの評価が高くなったのはよかった。来年も持続できるように、授業づくりに励んでほしい。馬場目ベース五城目での取組を世界的視野の育成と郷土理解の契機へとしたい。	
⑬自己評価および学校関係者評価に基づいた改善策	1 部活動以外の地域での活動等も含め多様な選択肢を認めて、一人一人がリーダーを務める機会や異年齢での活動を多くし、学校生活がメリハリのある豊かなものになっていくような取り組みをしていく。 2 これからは将来を考える時間が増え、自信がなくなったり、将来に対して明るいイメージを持ってなくなったりして、悲観的になってしまう生徒が増えるかもしれないが、個人面談や保護者と連絡を取り合う等して生徒の実態を捉え、一人一人の生徒への支援を継続していく。		教頭記入 主任記入

評価基準 A: 具体的な活動がなされ、目標が達成できた。
 B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。
 C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

②重点目標	1 中堅学年としての自覚を持ち、責任と節度ある行動や生活を心がける。 2 学習習慣を身につけ、学力向上を図る。 3 職業観を養い、具体的な進路目標を設定する。	前年度3月作成
③現 状	1 学校生活に関しては、多くの生徒が基本的な生活習慣、挨拶、時間厳守を身につけているが、提出物の期限を守らない、私物の管理や整理整頓ができていない生徒が散見される。 2 勉学に関しては、学習習慣の確立、基礎学力の定着ができていない生徒が多く見られる。 3 具体的な進路先についてはまだ検討中の生徒が多数である。	
④具体的な目標	1 基本的な生活習慣、挨拶、時間および期限厳守の姿勢を身につけさせる。 2 学習習慣を確立させ、基礎学力を身につけさせる。 3 自己の進路目標を明確にさせる。	
⑤目標達成のための方策	1 朝の校門指導や学年集会、クラスでの指導をきめ細かに行う。 2 進路指導、学年集会、HRでの連絡、担任による面談の機会を有効に活用する。 3 個々の学力や職業への適性について考えさせるために、コースの特性に応じた資格の取得を奨励し、個別に指導を行う。	
⑥具体的な取り組み状況	1 学年部職員による朝の校門指導・教室巡視、学年集会での目標確認、SHR・LHRでの指導 2 キャリアガイダンスやインターンシップ後の学習への動機づけ、担任・副担任による面談（1・2学期）、主任面談（1学期） 3 模試の実施、オープンキャンパス参加の奨励、危険物取扱者資格講習の受講	
⑦達成状況	1 遅刻や欠席は少ない一方、提出物の期限を守れない生徒が一定数いる。 2 テスト前以外は学習しない生徒が多い。家庭で課題に取り組むことができず、学校での居残り学習が常態化している生徒もいる。 3 模試やオープンキャンパスに積極的に参加する生徒が増えた。	
⑧自己評価	(評価) B (根拠) ⑥のような取り組みを実施しているが、⑦-1、2にあるように、期限厳守の姿勢や学習習慣がまだ身につけていない生徒が多い。	
自己評価に基づいた改善策	・「すぐーる」の連絡機能も活用しながら期限内提出を呼びかける。 ・朝学習や授業内の課題提出など、学校での学習習慣から定着をはかる。	
⑨具体的な取り組み状況	1 学年部職員による朝の校門指導・教室巡視、学年集会での目標確認、SHR・LHRでの指導、修学旅行を通じた生徒指導 2 朝学習でのSPI・ペン習字の導入、進路行事に関連付けた学習への動機づけ、各種面談 3 模試の実施、オープンキャンパス参加の奨励、危険物取扱者資格講習の受講、求人票の学習、三者面談の実施	年度末までの達成状況や評価
⑩達成状況	1 期限を守れない生徒が固定化する一方、一部の生徒は面談を通して改善がみられた。修学旅行では互いに協力して時間厳守に努めていた。 2 資格取得や各種検定の準備など、進路に関わる学習に積極的に取り組む生徒が微増した。 3 インターンシップを経験して進路を具体化した生徒もいるが、意識や準備の個人差が依然として大きい。	
⑪自己評価	(評価) B (根拠) ⑩-1、2のように⑨の取り組みを通して改善や成長がみられる一方で、3の進路目標に関しては未定・不安定な生徒も多く、引き続き進路学習や面談等による働きかけが必要のため。	
⑫学校関係者評価と意見	(評価) A (意見) 五城目一中との総合的な学習の時間における連携は、ぜひ継続してもらいたい。朝市ふれあい館での発表は、取組内容も一生懸命に発表する高校生の姿もよかった。インターンシップの様子から、自分の選んだ高校で、よさを発揮して頑張っていることが伝わり、安心した。2年時は働く人の姿に接し、職業に向かう気持ちを感じ取れるよう、職業観を養う機会を増やしてほしい。	教頭記入
⑬自己評価および学校関係者評価に基づいた改善策	・進路目標の達成に向け、進路指導部と連携を深め、保護者と情報を共有しながら、生徒の適性や特性に応じて志望理由書作成等の対策を進める。 ・キャリアアップ集会等の進路行事を十分に活用し、社会人として必要な生活習慣の確立、一般常識の習得、職業観の育成を促す。	主任記入

評価基準 A: 具体的な活動がなされ、目標が達成できた。
 B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。
 C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

②重点目標	1 進路目標の達成 2 社会人として必要な力の育成		前年度3月作成
③現 状	1 進学希望者に多様な受験システムを把握させ、早期に準備に取り組み、就職希望者には希望する職種の適性と求人側の求める内容との齟齬が生じないように配慮する必要がある。 2 生活習慣の確立、一般常識の習得が必要と思われる生徒が存在する。		
④具体的な目標	1 生徒個々の特性に応じた進路目標の達成 2 社会人として必要な教養の習得、生活習慣の確立		
⑤目標達成のための方策	1 進学希望者に進路学習、面接を通して受験校の事前調査および受験手続について早期に取り組みさせる。就職希望者に対して面接の時間を十分に確保し、適性に見合った就職先を見つけるための支援を行う。 2 言葉遣いや挨拶、整容、規則の遵守を指導し、進路学習(LHR・ST)の時間での一般常識の習得を意識させる。		8月までの達成状況や評価
⑥具体的な取り組み状況	1 生徒一人一人に十分な面接時間を確保することで、教師、保護者、生徒の3者間での情報共有が十分にできている。 2 学年集会の時間に整容検査を行っている。また、朝学習、LHR、STの時間に一般常識の習得を意識させることが出来ている。		
⑦達成状況	1、2の目標ともに計画的にその方策を実施できている。1の進路希望の達成については今後の進路決定状況を見守りたい。2の目標については概ね達成されていると思われる。		
⑧自己評価	(評価) B	(根拠) 年度途中であり、目標達成の評価は年内、もしくは年度内の進路決定状況を指標に判断すべきと考え、「B」とした。	
自己評価に基づいた改善策	今後も面談の重視、学年部を中心とした情報共有を継続し、40名全員の進路決定を目指す。		
⑨具体的な取り組み状況	1 生徒一人一人に十分な面接時間を確保することで、教師、保護者、生徒の3者間での情報共有を行っている。全職員に面接練習・受験指導を依頼している。 2 社会人として必要とされる教養や生活習慣の習得について、学年集会や定期的な進路ガイダンスを行っている。		年度末までの達成状況や評価
⑩達成状況	1 生徒の進路希望について学年部全体で情報共有が出来ている。全職員に生徒の面接練習・受験指導を依頼することで多様な進路選択に対応できた。 2 定期的な進路ガイダンス、職場体験等を積ませることで社会人として必要とされる教養や生活習慣の習得について役立つ体験を積ませることができた。		
⑪自己評価	(評価) A	(根拠) 1 進路決定について、複数回の挑戦を余儀なくされた生徒もいたが、40名全員が概ね希望を達成しつつある。 2 生活面、進路学習面の両面において学年当初よりも生徒の成長が見られた。	
⑫学校関係者評価と意見	(評価) A	(意見) チームで一人ひとりの生徒に向き合っていく体制ができており、地域や社会の未来を担う次世代が羽ばたいていく、安心できる環境があると感じる。 特に、複数回受験した生徒の気持ちを途切れさせないように励まし、受験等を通じて葛藤し、人間的に成熟させていることがうかがえた。これからも、がんばって指導していただきたい。 総合ビジネスコース、福祉コース、今後ボランティア活動に積極活動になる事を希望する。	教頭記入
⑬自己評価および学校関係者評価に基づいた改善策	評議員4名の方から、高評価をいただいた。慢心することなく、五城目高校全職員の方々への感謝の気持ちを持ち続けたい。卒業生となる生徒および保護者の皆様との関わりの中で教えていただいた教訓や反省事項を在校生および新入生への指導に生かしていきたい。		主任記入

評価基準 A: 具体的な活動がなされ、目標が達成できた。
 B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。
 C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。